



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3363 号 2016.11.24 発行

クックパッドの遊び版 保育士の「欲しかった」を実現

日経 DUAL 02016 年 11 月 24 日

待機児童問題をきっかけとして「保育士」という職業に、かつてないほど世間の注目が集まっています。「保育士はなぜ辞めてしまうのか」。保育士として 6 年間現場で働いた雨宮みなみさんは、保育士が欲しかった「あること」に注目、起業して保育士支援サイト「ほいくる」を立ち上げました。雨宮さんにその背景を伺います。

■ “クックパッドの遊び版” 遊びのレシピを検索

「もうすぐハロウィンだから、何か遊びのヒントを探さなくては」。なんとかその日の業務を終わらせて、大型書店へ。お目当ては保育士向けの専門誌。疲弊した頭と体を抱えながら、必死にページをめくり、時節に合った遊びのアイデアを探す。カリキュラムを作る義務感に追い詰められ、頭の中からは遊びを楽しむ「主役」であるはずの子どもの存在が薄れがちで――。



キッズカラー代表取締役 CEO の雨宮みなみさん

「いったいなんのために保育士という仕事をしているんだろう」。当時保育士だった雨宮さんは日々疑問を感じていたという。

そんな光景を一変させるべく雨宮さんが誕生させたのが、保育士支援サイト「ほいくる」。このサイトを使えば、例えば今の時期なら「ハロウィン」でキーワード検索。すると、子どもと一緒に作れるおばけの飾り物や、魔女に変身できるマントの作り方など、思わず子どもの笑顔が浮かんでくるような遊びのタネがずらり。ハロウィン関連だけでも約 90 もの遊びのタネが出てくる。

「保育士の一日は多忙です。おむつ交換や食事の世話、散歩の引率、昼寝の管理、制作物の準備、行事の企画準備、事務作業など仕事は多岐にわたります。疲れたなあ、と思ったときでも気軽にスマホを開いて『あ、これはあの子たちが楽しめそう』と子どもの喜ぶ顔を想像しながらヒントを得られるツールがあったらいいな。そうすれば忙しい中でも子どもの姿に寄り添った保育をより楽しめるはず。そう考えて開発しました」

「ほいくる」に現在掲載されている遊びの数は 3500 以上。「あそびのタネ」「まなびのタネ」「みんなのタネ」などのカテゴリーに分かれている。「ネタ」ではなく「タネ」という言葉をあえて選んだと雨宮さんは説明する。

「ほいくるの『ほいく』は『保育』、『くる』はきっかけという意味の英単語『clue』です。大人が肩の力を抜いて、『こうしなきゃ』ではなく子どもの姿に合わせて楽しめる“保育のきっかけ=タネ”を掲載する。クックパッドの遊び版を想像してもらおうと分かりやすいかもしれません。料理もそうかもしれませんが、遊びにも答えがないので、子どもにかかれば無限大の楽しみ方があると思っています」

しかし、最初は保育業界ならではの不文律が立ちはだかった。

あそびのタネ まなびのタネ みんなのタネ すくいのタネ おやこのタネ

トップ > あそびのタネ

あそびのタネ

おもわずワクワクしちゃう遊びのタネがいっぱい!

新着



敬老の日のプレゼントにも
ってこい! 心のコモった手
作りプレゼント12選

大好きなおじいちゃんおばあちゃんへ、とっておきの贈り物。みんなの



心のコモったあったか写真
立て〜手先を使って楽しむ
製作遊び〜

紐通し遊びを楽しみながら作れちゃう。手作りの写真立て。自由に



1つ、2つ、3つ…手作り積
み上げおもちゃ〜数字や数
が楽しめるような製作遊び〜

空き箱とペットボトルキャップで
遊ぼう。手作りの数遊びおもちゃ

保育士アプリできました!

Hoiclue's



KIDS DESIGN AWARD 2016

Download on the App Store GET IT ON Google play

人気記事

あそびのタネを検索できる「ほいくる」<https://hoiclue.jp/>

■「写真投稿」という新しいカルチャーを育てる

掲載している遊びのうち、500〜600個は雨宮さん自身が考えた。

「当時、保育士経験が6年しかなかった私一人でも、これだけの数の遊びの“引き出し”がありました。もっとたくさんの引き出しを持っている保育士や元保育士の方は大勢います。そもそも、それほど長い経験のない私が『支援』というもおこがましいこと。遊びのアイデアをみんなでシェアできれば、さらに遊びや保育の世界が広がるはずと考えました」

そんな雨宮さんのアイデアが結実したのが、遊びの写真にコメントをつけて投稿できるアプリ「ほいくる」。しかし現在の形になるまでには、時間がかかった。

「プライバシーの問題もあるので、保育業界には写真を撮って共有するという文化はありませんでした。そこでまずは写真を撮って保存・整理するという新しいカルチャーを作り出すところから始める必要がありました」

保育士支援アプリの「ほいくる」

最初は抵抗感の少ない、自分専用のアルバムを管理できるアプリとして提供。それからキャンペーンと銘打ち、投稿を募集。「アルバムに写真をためる」という行為から「写真投稿」を徐々になじませていく手法を取った。

じっくりと文化を醸成した結果、現役の保育士からの写真投稿が少しずつ増え、今では遊び



のアイデア写真 2 万枚以上が蓄積された。現在では「非公開」「アプリ内で共有 OK」「サイト内で公開 OK」などから選択できる。懸念された個人情報問題については「写真に名前や園名、顔が写り込むことのないよう、常にチェックできる体制で管理しています」と雨宮さんは語る。

また、資格は持っているけれども現場を離れている「潜在保育士」の能力も活用している。潜在保育士や子育て中のママを「ママくるライター」として認定し、記事の執筆を委託している。ほかにも、季節別の行事の解説や、自由に使用できるイラストカット集、保育用語集など保育士が日常業務を軽減できる情報をそろえた。利用はすべて無料で、今や日本の保育士約 42 万人の 6 割以上がこのサイトを利用しているという。

■ここは何をしてくれる場所なんですか？

雨宮さんは『ほいくる』をただの便利なだけのサイトでは終わらせたくない」と話す。「ほいくる」を運営するキッズカラーには、大きなミッションがある。

『保育』という言葉は『育ち』を『保つ』と読めます。子どもが本来持って生まれた『育つ力』はとてもすごいもの。大人が上から何かを教えるのではなく、子どもの育つ力を邪魔しないことが大切だと考えています。では、どのようにすれば『育つ力』を『保てる』のか。『うまくやるための大人の助言』ではなく、子どもの『やってみたいがあふれる環境』をたくさん生み出したいのです」

その実現のため、自社オフィスを月に 1~2 回無料で親子の遊び場として開放するという、手間暇のかかる取り組みにも挑戦している。

東京都品川区大井町にある、キッズカラーのオフィス。近所に住む小学校低学年以下の子どもたちとその親たちが集まってくる。一見ガラタのような、不要になった日用品で自由に遊ぶ「コドモガラタラボ」の始まりだ。

例えば牛乳パックひとつ、ダンボール 1 枚。これだけでも、自由奔放な発想を持つ子どもたちの手にかかれば、色々な遊びが広がる。

『ここは何をしてくれる場所なんですか?』と、初めて来られるお母さんによく聞かれます。水泳やピアノ、英語などの習い事のように、常に何かを教えてもらって、受け身でいることが多い環境に置かれている子どもが多いのだと分かり興味深いです。むしろここは、大人が子どもに色々教えてもらう場所。『いつもダメって言われることができる遊び場ですよ』なんて伝えています。折り紙を何枚も使ったり、思い切りビリビリして遊んだり。これまでに 100 人以上のお子さんが参加してくれました」

コドモガラタラボで遊ぶ子どもたち

雨宮さんの名刺には、正式名称の「株式会社キッズカラー」の文字は無い。代わりに「こども法人キッズカラー」と記されている。「子どもに寄り添う会社で在り続けたい、という意味を込めて、遊び心で『こども法人』とつけました」。雨宮さんは笑顔を見せる。

「子どもの遊びを共有するサイトを運営していても、実際に子どもと関わる機会がなくなったら子どもの視点から離れてしまう。ほいくるが子どもの姿から離れてしまうことがないようにしたいというのが、コドモガラタラボを運営している大きな目的の 1 つです」

子どもに失礼のない社会の実現。それがキッズカラーのビジョンだと雨宮さんは言う。起業をきっかけに「保育とは何か」を突き詰めて考え、たどりついた。

「実際に保育士として現場にいたときは、とにかく毎日忙し過ぎて『保育とは何か』などと立ち止まって考える余裕はありませんでした。保育士は親よりも長い時間子どもに接することもあります。子どもの人生を左右する大きな存在なのに、あまりにも余裕がない。



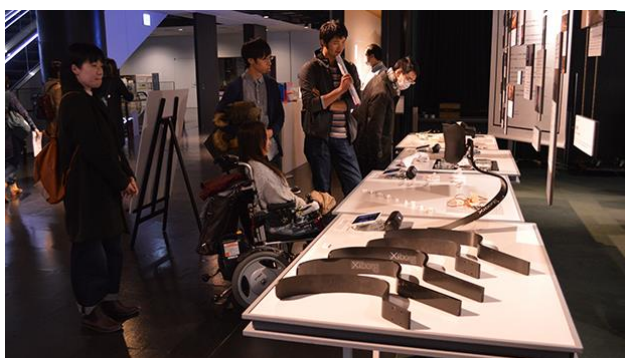
その現実をどうにかしたいとずっと悩んでいました」

その差し迫った思いが、雨宮さんを未知の世界である「起業」へと駆り立てた。

後編では、雨宮さんが直面した保育現場での葛藤、キャリアの軌跡を追う。

(ライター 小林浩子)

スタイリッシュな福祉機器 東京・渋谷で「超福祉展」



福祉新聞 2016年11月24日 編集部
展示では見せ方にもこだわった

福祉のイメージを変えるような福祉機器などを紹介する「超福祉の日常を体験しよう展」(超福祉展)が8日から7日間、都内で開かれた。NPO法人ピープルデザイン研究所の主催。

イベントは今回で3回目。メイン会場となった渋谷ヒカリエには、スタイリッシュな福祉機器が20点以上展示された。

例えば、WHILL(株)の車いす。洗練されたデザインの4輪駆動で、7センチの段差でも乗り越えられる仕様だという。

洗練されたデザインの車いすが並ぶ

また、世界で初めてという足でこぐ(株)TESSの車いすも展示された。障害がある人でも楽しめる「超人スポーツ」の紹介もあった。

期間中は連日、「認知症」「スポーツ」「雇用」などさまざまなテーマでトークショーが開かれた。渋谷区内にある人気ファッションショップでの展示もあった。



同研究所ディレクターの田中真宏さんは「デザインやテクノロジーなどの力で、人々の福祉に対する意識を変えることが『超福祉展』の狙い。東京パラリンピックに向けて、さまざまな人が共生できる社会を目指していきたい」などと話していた。

「しつけ」「虐待」違いは？ たたく、怒鳴るは「恐怖支配」

西日本新聞 2016年11月24日
講演する高祖さん。「安定した親子関係ができていけば、虐待は減っていくと思う」と力を込めた

11月は児童虐待防止推進月間。やんちゃなわが子に悩む親は、時に怒鳴ったり、たたいたりしてしまうこともあるだろう。今年5月には「しつけ」を理由に、北海道の山中で父親が7歳の子を置き去りにして、物議を醸した。しつけって何だろう。虐待との境界線はどこにあるのだろう。育児情報誌「miku」編集長、高祖常子さんの講演を聞いて、考えた。



11月12日に大分市で開かれた講演会の冒頭、高祖さんはずばり言った。「子どもが心や

体に傷を負うなら、それは虐待です」。たたいたり、脅すように怒鳴ったりするのは「恐怖と不安による支配」。北海道の事例は「子どもを放置して危険な目に遭わせた。ネグレクト（育児放棄）に当たります」。

体罰がもたらすデメリットは根深いという。まず、体罰を受けた子が、逆に暴力の使い方を覚える危険性がある。思い通りにならない友達に、暴力で言うことを聞かせようとしなないか。さらに、子どもと大人の信頼関係にも影響する。子どもは体罰を恐れて常に親の顔をうかがい、自分で考えて行動できなくなる危険性もはらむ。

m i k uの関連ウェブサイト「こそだて」のアンケートでは、7割の親が子どもを「たたいている」と回答。一方で、4割がたたくことに迷いを感じている状況も浮き彫りになった。高祖さんは言う。「たたくのも必要と思う一方で、たたかずにしつける方法が分からず、みんな迷っている」

では、どうすればいいのか。高祖さんは、しつけを「子ども自身が考えて行動できるように導き、応援していくこと」と定義した。それは「恐怖支配」と対極にある考え方になる。

その方法として「4つのステップ」を示した。①行動の背景には理由があり、まず子どもの気持ちを聞いて受け入れる②周囲の気持ちを整理し、言葉にして伝える③解決に向け、選択肢を並べてヒントを示す④最後に子どもが自分で決め、動く—という流れだ。

「たくさん褒めてあげて」とも呼び掛けた。自己肯定感が育つだけでなく、新しいことに積極的に挑戦したり、他人に優しくなる効果があるという。

受け止め、行動や考えを尊重し、褒める。「甘やかしにならないか」と思う親がいるかもしれない。だが、高祖さんは「違います」と言い切る。親自身が良いことと悪いことの基準を定めきれず、ぐずる子どもの言いなりになることが、甘やかしだという。

とはいえ、仕事や家事に追われる親が、時間をかけて子どもと向き合うのは簡単ではない。たたいたり怒鳴ったりしてしまう背景には疲れやストレスもある。「自分がいらいらしやうい時を自覚し、回避する方法を用意しておく工夫を」。親も、子も、毎日にここにできれば最高だ。子育て中の皆さま、わが子との関わり方を振り返ってみませんか。

子育ての不安をみんなで解消 虐待防止へ江東区で初の「メッセ」



東京新聞 2016年11月24日
27日の「こうとう子育てメッセ2016」への来場を呼びかける実行委員会のメンバーら＝江東区役所で

地域の子育て情報を一堂に集めた「こうとう子育てメッセ2016」が二十七日、江東区文化センター（東陽四）で初めて開かれる。育児に関する不安を取り除き、児童虐待を予防するのが目的。子育て中の区民を中心とする実行委員会は「きちんとした情報を届ける場。不安を少しでも減らしてほしい」と来場を呼び掛ける。（北爪三記）

メッセは、子どもの虐待防止に取り組む区内の子育て支援団体「ママリングス」と区の協働事業。ママリングス代表の落合香代子さん（47）は「虐待の背景にあるのは、子育てが思うようにならない、近所に相談できる人がいない、といった不安感。これを減らすことが予防につながる」と意義を説明する。

実行委員を公募したところ、子育て中の区民ら約五十人が集まった。実際に困っていることや求められるサービスなど、意見を出し合い、幅広い内容になるよう工夫した。

区の関係各課やNPOなど約八十団体が出展。保健師らが赤ちゃんの成長段階について話すステージや里親体験の発表会、しつけについて考える講座、子どもの病気の対処法の講演、区の「こども発達センター」やひとり親家庭の支援の紹介など、企画やブース、展

示は百以上。家事の時短術や赤ちゃんのハイハイレース、親子で楽しめるダンス、工作コーナーもある。

実行委員長の土屋由希子さん（34）は、育児がうまくいかずもやもやしていた時、他区の子育てメッセを訪ね「自分を助けてくれるところはたくさんある」と救われた思いをしたという。「子育てがやりにくい、どうして自分ばかり、と感じている人に来てほしい。きっと大丈夫、と思えるはず」。実行委員の多胡（たご）晴子さん（38）は「つながりをつくるきっかけにしてもらえたら」と期待する。

メッセは午前十時から午後三時半まで、入場無料。詳細はホームページ「こうとう子育てびより」に掲載している。問い合わせは、区子育て支援課＝電 03（3647）4408＝へ。

「準認可園」制度 県に提言へ 認可外園長サミット 琉球新報 2016年11月24日



認可外保育園の現状に基づく県への提言を議論した「県認可外保育園園長サミット」＝23日、那覇市首里石嶺町の県総合福祉センター

国の待機児童対策における認可保育園と認可外園の“格差”について考える「第1回県認可外保育園園長サミット」（県認可外保育園連絡協議会主催）が23日、那覇市の県総合福祉センターで開かれた。認可園を対象とした国の保育士処遇改善策を認可外園にも適用するよう求める声などを各地域の園長らが報告し、「準認可園（仮称）」制度導入など4

項目を県に政策提言する陳情文として採択した。

サミットには県内18市町村・計137園の園長や関係者、議員ら約230人が参加。議長を務めた同協議会の末広尚希会長（ライオンの子保育園長）は「行政との対立ではなく、提案について考える場としてサミットを用意した。四つの提言を県や自治体に届けたい」とあいさつした。

4%の賃上げとなる認可園対象の保育士処遇改善策を、認可外園にも適用するよう求める提言では、各地域の園長らが補助のない現状を報告。「認可園が増えて保育士が足りなくなる中、認可外園から引き抜かれている。処遇改善ができないわれわれはなすすべもない」と悲痛な訴えも上がった。

また（1）認可外保育施設整備監督基準を満たしている（2）保育士比率が50%以上（小規模認可保育園B型と同等）一の条件を満たす認可外園について、「準認可保育園（仮称）」「認可保育園B型（仮称）」とする新制度を導入して保育の質向上につなげるよう提言。園長らは給食費や人件費などの改善に期待を込めた。

そのほか、各市町村の情報提供など窓口で格差が出ない仕組みづくりや、地域の実態に即した認可外園の子どもたちへの支援を求める提言も賛成多数で採択した。同協議会は今後、県に対し陳情文を提出する。

奈良少年刑務所（奈良市） 赤煉瓦、愛され保存運動 /奈良



毎日新聞 2016年11月23日
ロマネスク風の奈良少年刑務所の表門。左右の円形ドームが特徴的だ＝奈良市般若寺町で、皆木成実撮影

「異例のこと。奈良の人々の懐の深い大和心からか」。先月、国重要文化財となることが決まった奈良少年刑務所（旧奈良監獄、奈良市般若寺町）。設計者の孫でジャズピアニスト、山下洋輔さん（74）を感動させたのは一般に「迷惑施設」とされる刑務所の保存を逆に地元住

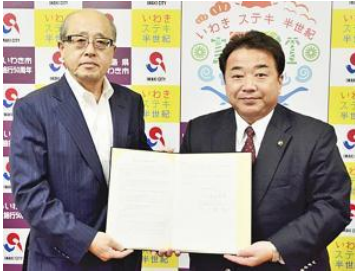
民らが要望した点だ。「奈良きたまち」と呼ばれる刑務所周辺を訪ねた。

「歴史的な建築がこのままでは壊されるかも知れない。保存を国に要望したい」。

ワイン生産拡大で協定 いわき市とNPO法人みどりの杜福祉会

福島民友 2016年11月24日

協定書を交わした清水市長と今野理事長（左）



いわき市と、同市で「いわきワイナリー」を運営するNPO法人みどりの杜福祉会は23日、ワイン生産量や販路の拡大、観光振興の強化などを目的に、農福商工連携に関する協定を締結した。同福祉会は市有地を借り受け、ブドウ栽培や販売所整備などを進める。

いわきワイナリーでは、障害者の就労支援などを目的にワイン製造などを行っている。市が民間力を活用した復興・創生プロジェクトとして、農業振興へのアイデアを公募。同福祉会が提案した「農福商工連携・着地交流体験型ワイナリー事業」が採用され、協定を結んだ。

協定によって、市は同市好間町中好間にある耕作放棄地の市有地約2ヘクタールを10年間、低額で貸し出し、同福祉会は原料のブドウ栽培をはじめ、来年12月までに販売所や駐車場などを整備。将来的に同福祉会は、今回借り受ける市有地にワイン製造所を移転するという。

協定締結式は同市で行われ、今野隆同福祉会理事長と清水敏男市長が協定書にサインした。清水市長は「メイド・イン・いわきのワインがさらに市場に出回ることを期待する」と述べ、今野理事長は「いわきの発展、観光振興のために尽くしたい」と話した。

ココクール応募、過去最多 210件から10件認定 中日新聞 2016年11月24日

はたけのみかた（湖南市）の「manma 四季の離乳食」=県提供



心の豊かさや上質な暮らしぶりといった滋賀ならではの価値観を持つ商品を選ぶ「ココクール マザーレイク・セレクション2016」の授与式が、草津市内のホテルであった。過去最高となる210件の推薦の中から10件を認定した。

セレクションは今年で五回目。県内外から自薦、他薦を問わず商品を募集し、自然との共生、三方よし、滋賀

らしさーなど五つの基準から選考会議が審査した。

湖南市の「はたけのみかた」の「manma 四季の離乳食」は県産の有機野菜にこだわった離乳食で、贈り物としても喜ばれるパッケージなど、女性の視点から考えられた商品として評価された。

エクレレ（東近江市）のエクレア=県提供

東近江市の社会福祉法人蒲生野会プリズムが運営する「エクレレ」は、種類豊富なエクレアが人気。障害者の自立をサポートする店としての役割を備え、併設する障害者就労支援施設から通所者を受け入れている。

選定された商品は県が会員制交流サイト（SNS）などでPRするほか、首都圏の展示会に出品することもあるという。（鈴木啓紀）

◇ほかに認定された商品やサービスは次の通り

エフエムクラックの弥平とうがらしシリーズ（湖南市）▽針江のんきいふあーむの近江針江の古代米（高島市）▽愛のまちエコ倶楽部の天然菜たね油菜ばかり（東近江市）▽古式製法丸中醤油（愛荘町）▽若井農園の黒豆抹茶玄米ケーキ（竜王町）▽お茶芽D r e a



m朝宮（甲賀市）▽Tour du Lac Biwa（大津市）▽休暇村近江八幡の沖島さんぽと琵琶湖八珍ランチ（近江八幡市）

レスキュー事業 社福法人、地域ニーズに応え /九州 毎日新聞 2016年11月23日

高齢者施設や障害者施設、保育園を運営する社会福祉法人同士が協力し、失業や病気などで生活に行き詰まった地域住民を緊急支援する「レスキュー事業」が広がっている。今年4月の社会福祉法改正で「地域における無料や低額の福祉サービス提供」が社福の責務になる中、得意分野の異なる社福が連携することで「幅広い年代の福祉ニーズに応えた支援ができる」と期待されている。【青木絵美】

石川) ボッチャ日本選手権、金沢で26日開幕 朝日新聞 2016年11月24日



日本選手権に向けて練習する田中恵子選手（右）と介助を務める母・孝子さん＝小松市符津町の小松サンアピリティーズ、県ボッチャ協会提供

障害者スポーツのボッチャの日本選手権（朝日新聞社など後援）が26、27日、いしかわ総合スポーツセンター（金沢市稚日野町）で開かれる。国内最高峰の大会で、藤井友里子選手（43）＝富山クラブ＝ら9月のリオパラリンピック混合団体で銀メダルを獲得した4選手も出場する。

ボッチャは白い目標球に、赤、青の球を投げたり、転がしたりしていかに近づけるかを競う競技。県からは田中恵子さん（34）、嶋谷長治さん（67）の2選手が出場する。田中さんの母・孝子さんは「今大会は上位を目指し、（2020年）東京パラ出場の夢も持ち続けたい」と話す。

県協会の作間祥一会長（63）は「多くの方に応援に来てもらって、選手の介助に興味をもつ人も増えてほしい」と話した。（塩谷耕吾）

乳がん治療中の小林麻央さん、英BBCの「女性100人」に



読売新聞 2016年11月24日

小林麻央さん（右）と市川海老蔵さん

【ロンドン＝角谷志保美】乳がん治療中のフリーアナウンサー、小林麻央さん（34）が、英BBCの今年の「女性100人」の一人に選ばれた。

闘病中の思いをつづった小林さんのブログを、「同じようにがん」と闘う人を含め、多くの人を元気づけている」と評価した。

小林さんは、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんの妻で、幼い子供2人の母親でもある。BBCは23日、「色どり豊かな人生」と題

した小林さんの寄稿を、日本語と英語でネットに掲載した。

寄稿では、支えてくれる家族のために、「誇らしい妻、強い母でありたい」と、今年、ブログで闘病を公表した心境を明かした。また、「与えられた時間を病気の色だけに支配されることは、やめました。なりたい自分になる。人生をより色どり豊かなものにするために」と、決意を記した。BBCは2013年から毎年、「影響力を持ち、人の心を動かす女性」を、世界中から100人選んで紹介している。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行